

令和元年度

## 怡土城跡大門地区発掘調査現地説明会資料



水が流れ出す様子（令和 2 年 1 月 28 日）

令和 2 年 2 月 8 日（土）10：00～11：30

糸島市教育委員会

## I. はじめに

## II. 調査成果の概要

遺跡名 怡土城跡（国指定史跡）  
調査地点 糸島市大門 15-1・2、16 番地  
調査期間 令和元年 12 月～令和 2 年 2 月  
調査面積 約 10 m<sup>2</sup>  
主な遺構 土坑、通水施設  
出土遺物 瓦、鉄滓、須恵器、土師器、陶磁器  
特記事項 通水施設の設置に伴う掘方の確認

## III. 怡土城跡について

怡土城は糸島市と福岡市の境、高祖山（416.1m）の西斜面一帯に築かれた奈良時代の古代山城です。郭内面積約 280ha を測り、城の西側前面には全長 2 km に及ぶ土塁が構築されています。

### 1. 怡土城築城の流れ

756（天平勝宝 8）年 6 月 大宰大弐の吉備真備が怡土城の専当官に任官され、築城開始

759（天平宝字 3）年 3 月 吉備真備が太宰府防衛の不安 4 条を政府に奏上。そのうち 2 条で東国防人の廃止に伴い不慮の変に対応できること。第 3 条で西海道出身の防人を怡土城の築城に用いたいことを要望。

その結果、防人を怡土城築城で使役することが許可され、東国防人の復活も 766 年に許可。

765（天平神護元）3 月 大宰大弐の佐伯今毛人を築怡土城専知官に任命。

768（神護景雲 2）2 月 怡土城完成。

### 2. これまでに確認された主な遺構

①土塁 高祖山西裾において土塁が構築されており、土塁線は南北 2 km に及ぶ。高来寺地区では土塁の外側には幅 10～15m の濠の存在を確認。

②城門 5 か所（大鳥居口・染井口・大門口・小城戸口・伊勢城戸口）

③望楼 9 か所（一ノ坂【3×2】、第 1 望楼【3×2】、第 2 望楼【3×2】、第 3 望楼【3×2】、第 4 望楼【掘立柱か】、第 5 望楼【3×2】、縣庄【3×2】、一丁月見、杜辺）

※今日は縣庄礎石群を見学することができます。

④水門 4・5 か所か（『改正原田記』では水門として「港」・「大鳥居の南」・「大霜」・「風音寺」の 4 か所があげられていますが、遺構は不明。鏡山猛氏の調査報告で付図に水門の推定ライン 5 か所が記されています。）

#### IV. 調査の成果について

これまで、怡土城跡では4・5か所の水門の存在が指摘されていましたが、発掘調査は行われておらず、具体的な姿は不明でした。ただ、今回の調査地点は以前から大雨の際に水が噴き出し、現地確認で水の通り道のような穴が開いていること。1937年報告書で示された水門推定地に近いことから、今回は水門の有無を確認し、その構造を明らかにすることを目的としました。

調査では穴の部分を中心にL字形のトレンチを2本設定しました。その結果、

- ① 南北方向のトレンチの両端で地山を検出し、約8mの落ち込みが存在すること。
- ② 落ち込みは東接する土壘の直行方向に延びていること。
- ③ 落ち込みからは大小の石材が出土し、石の間から水が出てくること。また、水は西側の落ちに向かって流れしていくこと。

が確認され、この8mの部分に通水施設が存在することが考えられます。

怡土城跡は高祖山の西側裾部に土壘を構築しており、山から下ってくる水の処理が大きな問題でしたが、ここでは大規模な通水施設を設け、水が土壘に与える悪影響を最小限のものにとどめる工夫を行ったと考えられます。

なお、水が流出する穴をのぞいてみると、乱雑な形で石材が広がっており、水は石と石の隙間を流れていることが確認されました。そのことから、現段階では、朝鮮式山城や神籠石でみられるような石材で組んだ断面方形の水門は確認できませんが、より土壘側に水門が存在する可能性を考えています。

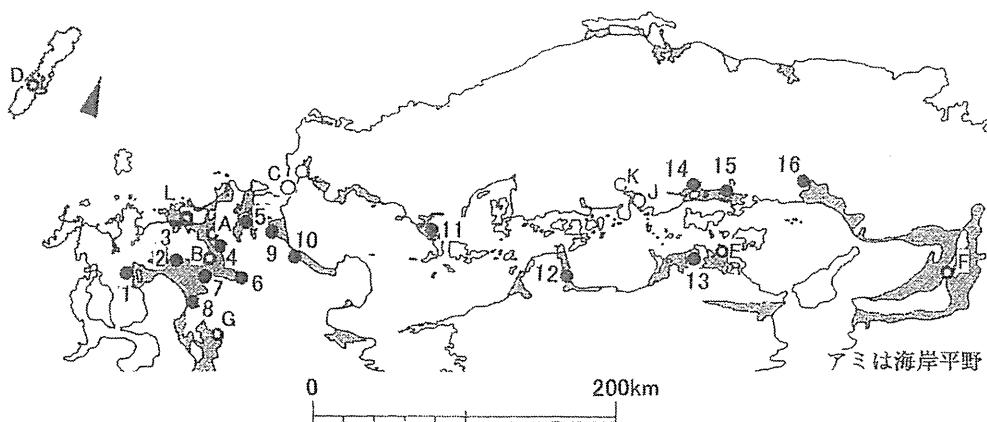
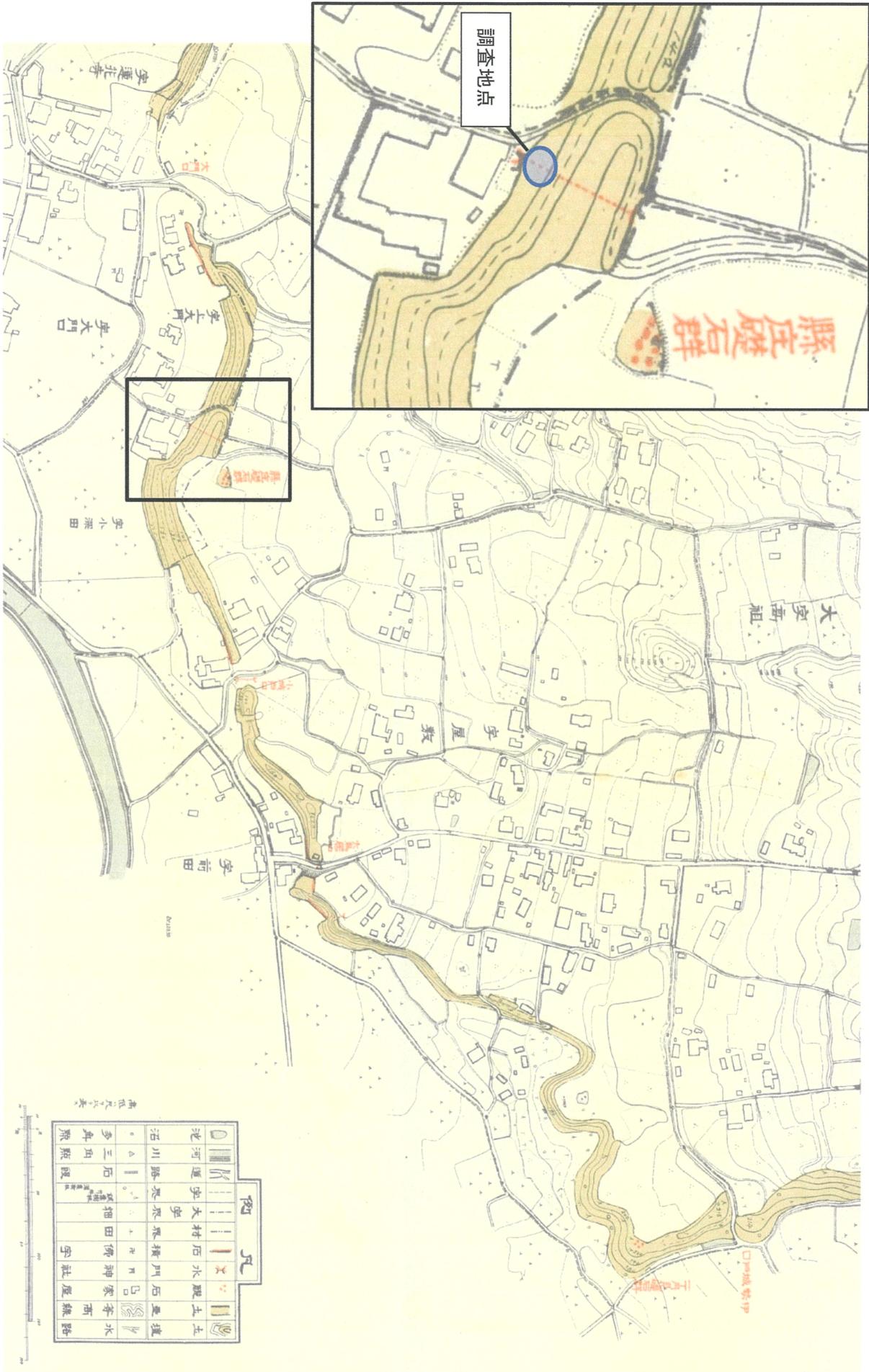


図1 古代山城の分布（村上・乗岡 1999一部改変）

- A. 大野城跡 B. 基肄城跡 C. 長門城 D. 金田城跡 E. 犀鳴城跡 F. 高安城跡 G. 鞠智城跡  
H. 三野城 I. 稲積城 J. 茨城 K. 常城 L. 怡土城跡 1. おつば山神籠石 2. 帯隈山神籠石  
3. 雷山神籠石 4. 阿志岐城跡 5. 鹿毛馬神籠石 6. 柏木神籠石 7. 高良山神籠石  
8. 女山神籠石 9. 御所ヶ谷神籠石 10. 唐原山城跡 11. 石城山神籠石 12. 永納山城跡  
13. 讀岐城山城跡 14. 鬼ノ城 15. 大廻小廻山城 16. 摺磨城山城跡 C・H・Iは所在地不明



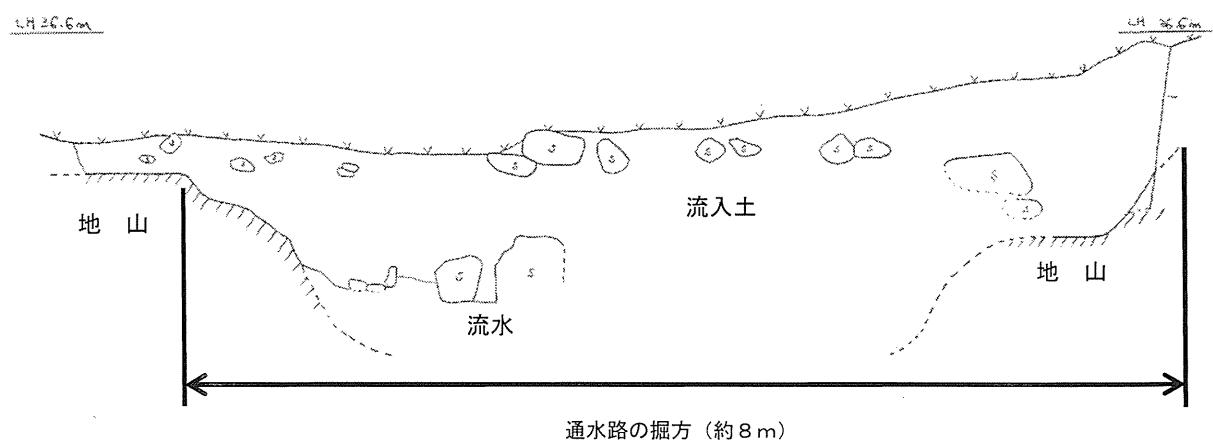
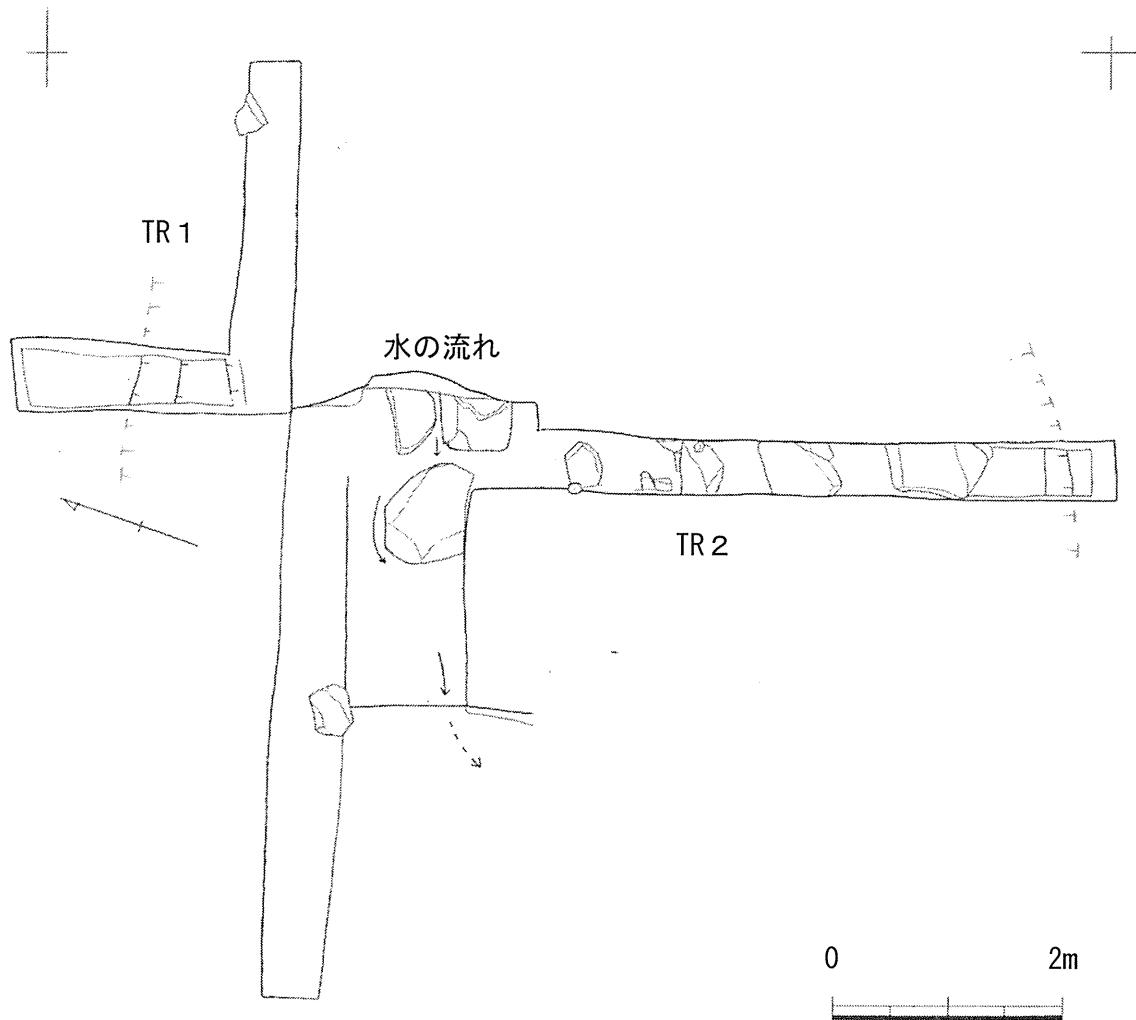
怡土城跡水門位置図（日本古代文化研究所報告第6 昭和12年刊より）



怡土城跡調査区配置図 (1/150)



調査区全景 3D 画像（上側が北）



トレンチ配置図と南北土層断面図 (1/60)

水流出部拡大 3D画像

Generated with Aqisoft Metashape

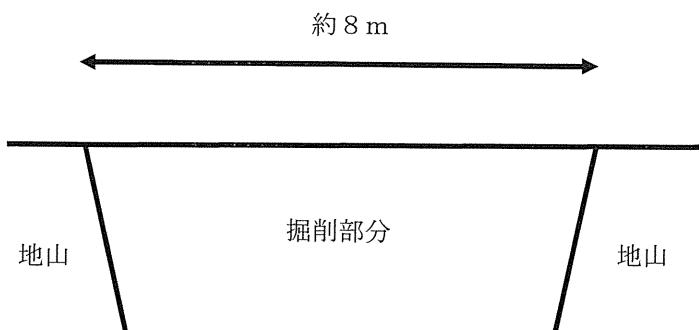


### ① 通水施設の設置個所を決める



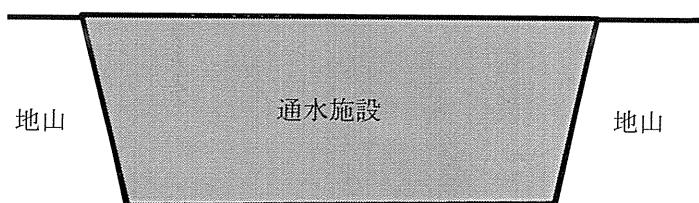
通水施設の設置個所を怡土城築城の全体計画に基づき選定。

### ② 地山を掘り下げる



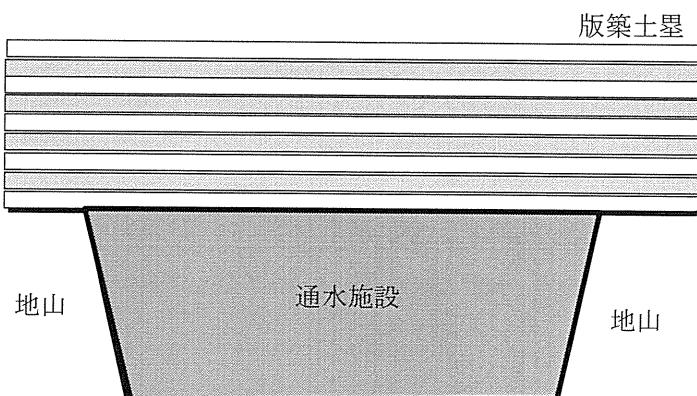
場所を決めたら、幅約 8 m で、地山の掘削を行う。おそらく西に傾斜するように勾配をつける。

### ③ 通水施設を設置する



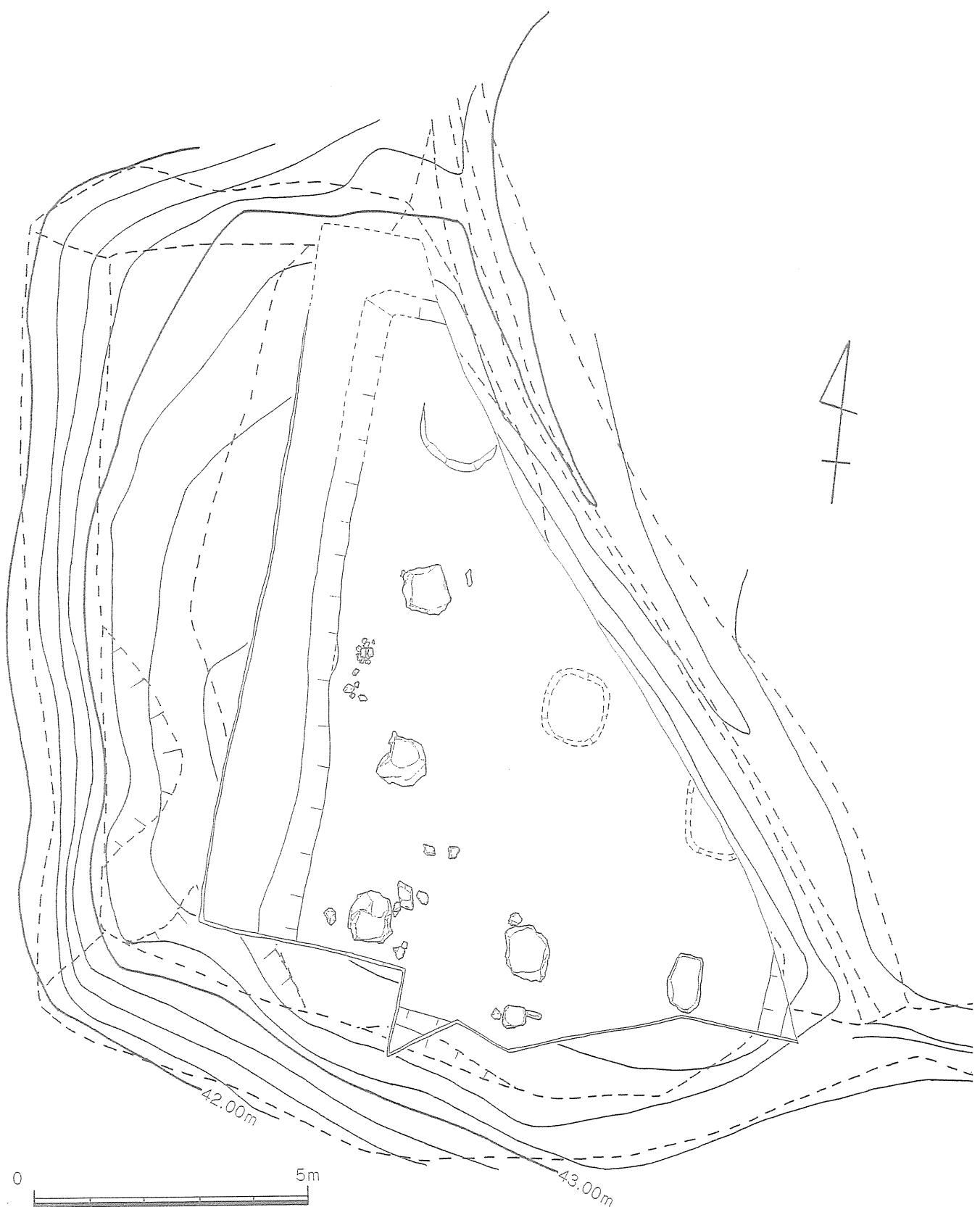
通水施設の具体的構造は不明であるが、掘方が 8 m あることから、大規模なものが想定される。

### ④ 土壘を構築する。



通水施設の水の流れ等を確認したのち、土壘を構築する。西側前面と土壘は 8 m の高低差があり、勾配もきついことから版築で土壘を築いたと想定。

怡土城通水施設部分の構築のイメージ



縣庄礎石群地形図 (1/100)